

本二件書留

平野貫一郎

明治廿二年十一月申居留地
賣上代金 出 本山卷十郎

明治廿二年十一月中居留地

賣上代金由本山騰十郎

名前以テ預ケ中右存人

より母美死口上テ金五百

円借用シ家屋地所等抵当

トナスノ約ヲナシ翌明治廿三年

三月ニ至ル迄借用證ヲ出ス

ナリ存其糶糊ニ甘スル有様

ナルヲ以テ母公之ヲ督促ス

比更ニ忘ス母弟江本秀次

郎ヲ以テ之ヲ促ス

江本氏嘗テ本山ニ對シ教件

ノ負債アリ内一件ハ正ニ母公

保証スル所ナレ餘ハ皆關係ナ

キモノナリ矣

然ルニ本山氏此教件ヲ以テ悉

此五百円より差引テ残高ヨリ

却セトス故ニ母心ハ横疾富也

郎夫人ニ托シテ其不償ヲ

許ヘ茲ニ之ガ仲裁ヲ仰ガ

横瀬白双方間、幹旋之法
局母公より其保証、関カレ
件元利二百金内ヲ負擔
スルヲ以テ之ヲ横瀬氏ニ依テ
本山、吾グ、本山尚聞カズ
横瀬夫人モ彼ノ横着、特
餘ニ此調和、責ヲ辭セラレ

明
三
即

後
リ
ナ
リ

下
ノ
者
高
年
清
氏
子
娘
を
嫁
に
し
て
之
を
養
育
す
る
事
に
由
り
て
是
ノ
如
ク
也
伊
勢
守
氏
ノ
御
印
也
此
印
は
伊
勢
守
氏
ノ
御
印
也

皆以て其不肖ヲ説ク

是ニ於テ貫一母公ト謀テ曰ク
事茲ニ至ル既ニ人情ニ拘泥
スル時ニ非ス直ク公然ノ裁
許ヲ仰クニ如カズ然レモ今
迄ノ關係モアリ突如之ヲ

公庭ニ出ス一ヲ忍ビ久故今

横瀬氏双方、問、幹旋之法
局母公より其保証、関カレ
件、元利二百金内ヲ負擔
スルヲ以テ之ヲ横瀬氏ニ依テ
本山、吾グ、本山尚聞カズ
横瀬夫人モ彼ノ横着、特
餘ニ此調和、責ヲ辞セラレ

明治廿三年七月十九日貫一
郎、清右、一切、関係ヲ聞

會、母公、足立禮三氏、謀リ
女婚ノ兄、代言人丸毛兼通、
此條理如何ヲ質ス、丸毛氏
皆以テ其不當ヲ説ク

是ニ於テ貫一母公ト謀テ曰ク
事茲ニ至ル、既ニ人情ト拘泥
スル時ニ非ス、且ク公然、裁
許ヲ仰ク、如カズ、然レモ今
迄ノ關係モアリ、突如之ヲ

公庭ニ出ス、一ヲ忍ビ、故ニ今
又、月ヲ待テ、庭開庭時、

三
後
丁
十月
伊

此ノ關係アリ突如之ヲ

公庭ニ出ス一ヲ忍ビテ故今
數週ヲ待テ公庭開庭時
待テ今一應右左山ハ愈
正理ニ服セザルカコ責メ其返
答ニ依テ愈公庭ニ訴元
ト決之茲ニ中止トナリ

嘗テ丸毛氏ニ託シテ一訴
訟^{準備}ヲ備テ托之置キタルハ廿
三年九月十日午後未テ

此件ヲ興善所小佐ニ代
言人ニ托シタル一ヲ告グ

日夜貫一母公ト共ニ横濱
行キ最後ノ談判ヲ依頼シ
且ツ是等々江本ニ保証ニ
ル件ヲ償辦スル意ヲ通シ
タリ取消ス

日夜同道小佐ニ氏ヲ訪フ
一併始終ヲ解説ス同日曰
教件皆利アリ只獨時

田代云々ノ四拾五兩半ノ件
之ニ或ハ雜債ノ不_レ得_レ也
至_レルヤモ計_レラズト_レの翌

廿三年九月十一日午_レの六
時半本山氏自筆ニ干
當平榎家金子出納帳
中自筆ニテ金五兩
本山膳馬十郎ノ代_レ渡_レスノ字
アラ以_レテ之_レ小佐_レ氏ニ示_ス